# SADA

## SAKAI DESIGN ASSOCIATION

## 堺デザイン協会

No.7

昭和62年9月30日

じばしん南大阪

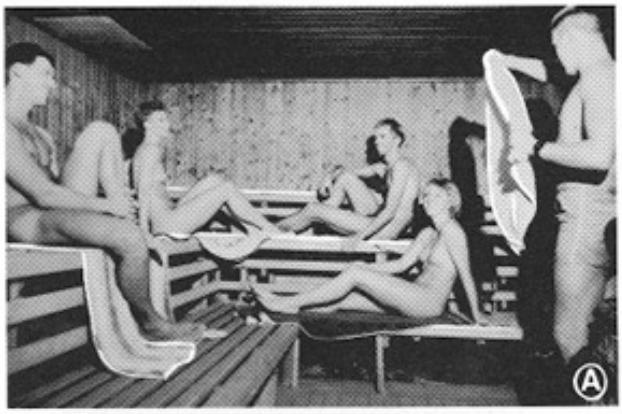
## バーデンバーデン等ヨーロッパのサウナ施設

### 第９回国際サウナ会議とヨーロッパ施設を視察して

古本和宏

日本サウナ協会が企画したツアーに参加して、北欧の西独・東独・スイス・オランダのサウナ施設を視察しました。

東独内に東西ベルリンが有り、西ベルリンで都心型のサウナである《テルメン（温泉）》は、脱衣ロッカー室は男女別でも中は混浴であったが、以前は男女別浴であった様で設備が全て左右対称。独では経営上の都合で混浴にしてから客数が増加して軌道に乗ってきたそうで、西独ではその後サウナ室では混浴が常識の傾向です。(写真A) 西ベルリン郊外の大型《ブルブ》は、家族向けレジャーセンター形式で温水プ

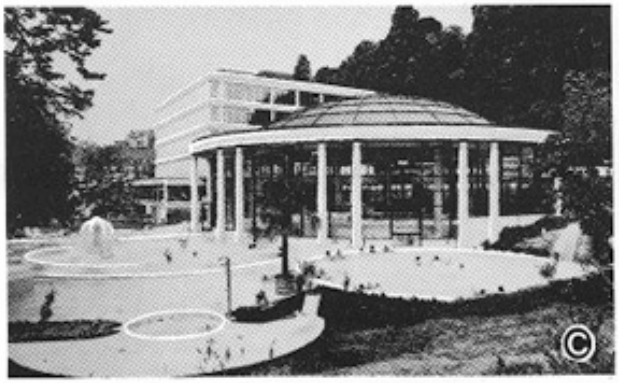


ールに噴水・ウォーターガーデン・ウォータースライダー・造波設備付きで脇には、小グループ用のジェットバスが配置されて、ガラス張りの建物からは屋外の温水プールも見渡せ、食堂もセルフサービスで自由にでき、休憩用安楽イスも多い。同フロアーで、サウナ室は中高年向けとなっていて、水泳用水着は入口で脱いでの混浴で、バーカウンター・軽食カウンター付き、サウナ室を取り巻いて池を想わせる温泉プールが有り、外気浴のできる庭にも丸太小屋のサウナ室も有り静かなコーナーとなっている。地下の部屋ではゲームコーナー・ショッピングコーナーと、一日中楽しく過ごさせる施設となっている。東ベルリン市内にもその影響とおぼしき施設が見受けられた。（写真B）

バーデンバーデン（西独）は、高級温泉保養地として世界的にも有名で、街全体が、クアパークとして機能していて

小川から丘に至る森林が公園で自然浴を楽しみながら保養や、治療を続けることができ、日本の温泉地とは、かなり違ったイメージである。この街に最近《カラカラテルメ》(写真C) が完成し、若い客に人気が有るようで、隣接して以前から在る《フリードリッヒスバード》（写真D）は相変らずオールドファンで賑わっていて、新旧対照的に両立している。

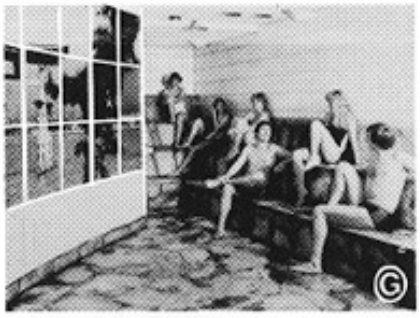
《フリードリッヒスバード》は都心型で《カラカラテルメ》は郊外型で、サウナ室では水着を脱いでの混浴、治療



設備も有り、医師の指導で保養計画を立てる仕組み。

フランクフルト近郊の《プエブロ》はメキシカンスタイルの都心型、《レブストックバード》は、泳ぎを中心とした大型の郊外型で造波設備付き。

バートホンブルクの《タウナステルメ》は、 超大型を誇って



いるだけに屋外温泉プールも大きく流水部では泳ぎ登らせたりさせていて、この種のスタイルの最先端らしく、多目的スポーツ室から映写室・日焼けコーナー・レストラン・混浴のサウナ室にもバーカウンター付き・プール付き。特にサウナ室は高温から低温に至るまで8室有る程の配慮、デザインのポリシーに東洋的エキゾチシズムを強調したつもりの様で、日本の写真まで取り入れて、屋外には大型の滝や屋根から落ちる滝など、日本的風景を造り出そうと努力していて、自然と融合することを狙った造りは、楽しいムードとなって受けている様子です。（写真E・F・G）

バードリーベンツェルの《サウナピネア》（写真H）は、保養センターで、温泉プールは、指導員が付いてグループのリードをしている。

スイスのレーゲンスドルフの《フィットネスパーク》は都心型で南国に憧れたムードで中高年向けのスタイルで、多目的スポーツ室と美容室にも力を入れている。スイス・フェフィコンの《アルパマーレ》は、郊外型、裏山の林を背景に温泉プールとし室内の造波プールと連絡させた中型、3階からすべり降りる浮きに乗ってのウォータースライダーが目玉の呼びものとなっている。レストランでは自分でソーセージを焼いて食べさせるシステムが珍しい。

最近は、観光・リゾートホテルでもプールやサウナを併設される傾向ですが、都心型から始まったサウナ・温泉が客層の拡大から郊外型に発展、若者同志向け、幼児から老人に至るまでの家族向けへ、と規模が変様しながら進展して一日中楽しめるレジャー産業として成長して来ている。

独の温泉地では、温泉保養館（クワハウス）思想が中心で原則としてプールでも泳がない。レジャーランド志向では造波・流水プールで遊泳用と、営業目的によって変化、次第に楽しい温泉・楽しいプールを目差して来ていて、その思い切った動向は世界的にも注目をあびており、影響力も大きい。

写真はカタログより転載

## 堺市制100周年の記念事業

昭和64年、堺市は市制100周年を迎えます。初めてわが国に市制が敷かれたのが明治22年4月。本市も含めて38市が全国653市の中でまず、はじめに100歳を祝うことになります。

堺市では61年3月「堺市制100周年記念事業推進委員会」を設立、「基本計画」の策定方針を決め、その方針にもとずき「堺市制100周年記念事業推進委員会企画専門委員会」(学識経験者による一般部会・行政担当者による行政部会)で意見・提案を集約すると共に62年1月にまとめた行政プロジェクトアンケートなどを資料に「基本計画企画案」を作成。同案について「堺市制100周年記念事業推進委員会」で中間報告の検討を行い、フィードバック手順を経て、堺市制100周年記念事業推進委員会総会で「基本計画」を策定、発表されました。(62年4月)

なお企画専門委員会・一般部会には堺デザイン協会より岡村筍さんが会員として参加されております。

SADAニュースでは順次関連情報をお知らせしてまいりますが、本号では62年4月推進委員会発行の堺市制100周年記念事業基本計画「フェニックス堺21—伝統と創造」から《基本計画概念図》と計画されているイベントの数々を紹介します。

### 計画イベント年度別一覧

**■62年**

- 市民推進大会(式典)　9月26日　じばしん南大阪
- 大小路シンボルロードモデル区間完成イベント
- 中百舌鳥新都心整備関連イベント
- 全国文学フォーラム　11月3日　じばしん南大阪
- 堺市民芸術祭

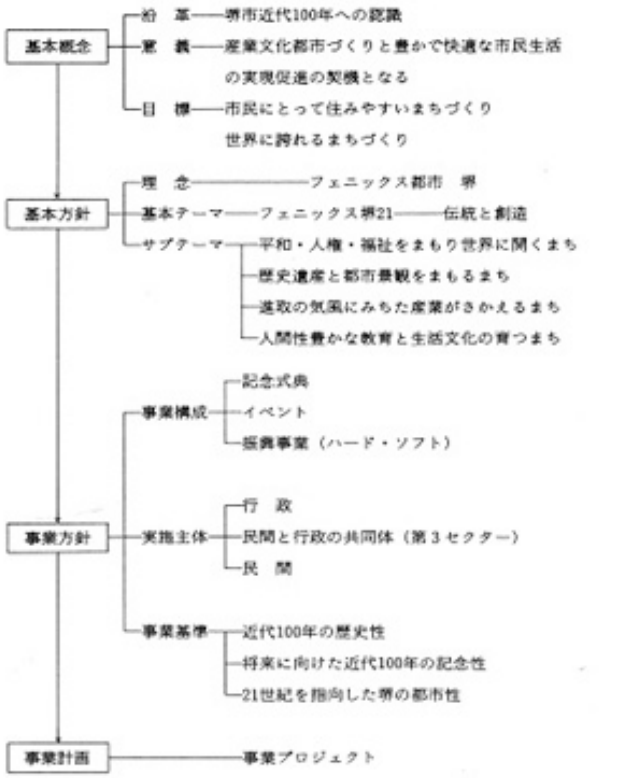
**■63年**

- 平和と人材展
- 連雲港市友好都市提携5周年イベント
- 市民憲章制定25周年記念イベント
- 大仙緑道完成イベント
- 堺市ふるさとの森、大仙公園もずの森記念植樹祭
- 自転車で結ぶシルクロード'88
- 与謝野晶子フォーラム

**■64年**

- 国際交流フェア
- 国際交流フォーラム
- 福祉チャリティ堺自由バザール
- 堺21世紀住宅フェア
- 堺の100年郷土資料展
- 産業近代100年展
- 産業(都市農業・工業技術、流通サービス)フォーラム
- 堺市博物館10周年記念特別展
- 堺カルチャーバンク協会3周年記念イベント
- 既存イベント100周年記念協賛事業
- 利休大茶会
- 堺市民劇場
- 堺リクリエーション協会40周年記念イベント
- 消防40周年記念イベント

### 100周年記念事業基本計画概念図



## 市制100周年記念シンボルマークなど決定

市制100周年を記念して堺市制100周年記念事業事務局が募集したキャッチフレーズ、シンボルマーク、キャラクターマークが決まりました。8月10日に応募が〆切られ、キャッチフレーズ1358点、シンボルマーク794点、キャラクターマーク254点の応募作品の中から、8月18日午後じばしん南大阪で行われた審査会に於いて、次の9点の作品が入選佳作に選ばれました。

■シンボルマーク

●入選　宝谷　隆博（31才）G.デザイナー　福岡市

基本テーマ・サブテーマに使われているフェニックスと、100周年の「100」を組み合せたもので、赤色と金色を使用した。赤色は創造、躍進、金色は伝統・歴史を意味する。

●佳作　波多野　義孝（57才）G.デザイナー　大分市

形は数字の「100」をデザイン化したもので、堺の頭文字の〝S〟をミックスさせたもの。斜体は未来に向っての限りないエネルギーを意味した。

●佳作　西村　誠太郎（53才）G.デザイナー　堺市

堺の頭文字の〝S〟をモチーフに、全体を前方後円墳と合致させ、方形の安定感と円形の和、さらに上に向っての発展の願いを表現した。

■キャラクターマーク

●入選　石田　隆（45才）石川　和市（35才）
G.デザイナー　名古屋市

かっての黄金の日々を現代によみがえらせようとする市民の気持ちを、自らの身を焼いて新しくよみがえるというフェニックス（不死鳥）になぞらえ、可愛らしく親しみやすくデザインし、伝統・創造・発展を象徴した。

●佳作　永田　暢也（54才）G.デザイナー　箕面市

ＳＡＫＡＩのイニシャルの〝S〟の文字をデザインするとともに、火の鳥・フェニックスらしくスピード感をもたせてそのイメージを視覚化した。

●佳作　浜　常治（42才）G.デザイナー　福岡市

フェニックスの頭文字の〝P〟と堺の頭文字〝S〟と組合せて、躍進する未来都市、堺を夢みる乙女をデザイン。赤色で市民の都市発展への情熱を表現した。

■キャッチフレーズ

●入選　坂本　美登（57才）会社員　堺市
「100年の知恵で築こう堺の未来」

●佳作　斎藤　日出男（64才）自営業　静岡市
「伝統を生かす堺にひろがる未来」

●佳作　南　英市（51才）自営業　近江市
「いきいき堺　ふれ愛シティ」

（山崎　晶）

## 企業が創る

**オーストラリアのアートがファッションに ―――― "Down Under" by Ken Done**　　**福助株式会社**

群青のグレートバリアリーフ、きらめくゴールドコーストやシドニーのオペラハウス、パースからひろがる西部の大自然と多種な有袋類の生態。父なる英国に対し地球の反対側にあたるため住民自ら "Down Under" のニックネームで呼んでいる国オーストラリアは、いま若い女性に人気急上昇、カナダとともにツアー希望No.1に躍進した。

シドニーに住んで、この国の明るく陽気な風景、海港、動物、草花などを軽快なタッチで描き、絵画から生活用品のデザインまで巾広く取組んでいるオーストラリアの代表的なアーティスト、ケン・ドーン氏。彼と提携して、若い女性のための、アートによる新しい商品群を開発し、昨年末、渋谷の西武SEED館でデビューセールを行った。

"Down Under" by Ken Doneは、アウターウェア・くつ下・くつ・パンツ・帽子などの衣料品だけでなく、バッグ・かさ・ぬいぐるみから、ポスターやグリーティングカード・ダイアリーなどのステイショナリーまで、生活をアート感覚で楽しめるファッショングッズのトータルな展開となっている。

## ズームアップ

**水琴窟（すいきんくつ）**　　**上野冨美子**

去る6月初め、大仙公園内の茶室、黄梅庵の前庭に水琴窟が作られました。日本庭園の〝わび〟と〝さび〟をかもしだす水琴窟は、江戸時代の中頃から盛んに作られたそうです。

埋められた「かめ」に、つくばいのすき間から水滴を落として、その水滴音を琴の音（ね）にみたて、これを聞きながら一ぷくの〝おうす〟をいただく……何と心しずまる所作（しょさ）ではありませんか……

今のせかせかした私達の生活をふりかえらせてくれる優雅な音色（ねいろ）に、ひととき接してみては如何でしょう。

（この水琴窟は、堺仁徳ライオンズクラブから、堺文化観光協会に贈られたものだそうです）（見学無料）

## 堺・今・昔

### たばこ庖丁とニューセラミックス刃物　　老　健一

１５４３年（天文１２年）鉄砲伝来とともに堺にたばこが入ってきたという記録がある。（堺刃物連合組合史）このたばこ葉を刻む刃物の必要から、綾之町中浜筋に住む本手長兵衛が豊臣太閤の命で苦労の末、当時舶来品であったたばこ庖丁を造ることに成功し、以来たばこ庖丁は堺の独占品となった。ニューセラミックス刃物にも似たような事情がある。アルス刃物社の専務、滝川益彦さんに伺った話であるが、最近の新素材のガラス繊維、炭素繊維１００％のクロス、あるいはこれを組み合せたハイブリッドクロスの加工には、在来の工具鋼の刃物では切れ味が悪く、新素材用の刃物の要望がしきりであったが、これに応えてニューセラミックス刃物が生れたといえると。

10年ほど前、ニューセラミックス刃物が開発され、陶器が刃物になったと騒がれたが、家庭用刃物のようにあらゆる材料を加工するには不向で、ニューセラミックス刃物の特性である耐久力を生かす加工に選択され、前記新素材の裁断に威力を発揮している。例えばガラス繊維１００％のクロスの裁断に工具鋼を使うと６００回で使用不能になるが、ニューセラミックス刃物は４５０００回使っても切れ味に衰えがなかったという。

新しい物に対する堺の伝統的な情熱は、たばこ庖丁の頃もニューセラミックスの現代も引き続き受け継がれているといえないだろうか。

## E-スポット

### こだわりの「三田屋」堺店　　桑原正嗣

知る人ぞ知る北摂三田ニュータウンの「三田屋本店」。桜の木を燻し、コーヒー豆と粉チーズで独得の香りと味に仕上げた手づくりハムと、三田牛のステーキを専門にしたレストランだが、自ら、直営農園で季節の野菜を有機栽培し、窯を築いて幻の三田青磁を復元、製造するなど、そのこだわりの世界を拡げて来た。今春には移転新築した本店の敷地の中に、本格的な能舞台を完成させて話題を呼んだ。

この３月、大小路菅原神社横に出店した「三田屋」堺店もメニューは１種類だけ。手づくりハムのオードブルとヒレステーキに、スープ・サラダ・三田米のごはん・アイスクリームがついて４８００円のコースは、ピアノとフルートの生演奏をバックに、すべて三田青磁の器で供せられ、くつろいだ気分で食事ができる。(昼時はステーキランチあり)

店で販売している手づくりハムをとくにお勧めしたい。

（大小路菅原ビル２Ｆ　TEL(22) 7317　年中無休）

## 新CI革命 —— その本質とホンネ

織田　義郎

ＳＡＤＡニュース６号でお知らせいたしましたが、この度会員の、織田義郎さんがＣＩの本を出版されました。日刊工業新聞社刊《新ＣＩ革命、その本質とホンネ》がそれで、好評発売中です。今号では特に織田さんにお願いして著書を熱っぽく語っていただきました。

ＣＩが日本に導入されて、20年経つと言うのに、まだまともなＣＩ成功論を耳にしたことがない。逆に、ことごとく失敗談や失望談ばかりが聞こえてくる。自分なりに「ＣＩ日本企業適応法」を確立して、少なからず実践を重ねるうちに、出版社の要請もあって、書にまとめてみることにした。

反響は予期以上で、全国から数多くの手紙を頂いた。ほとんどが企業からのもので「ＣＩの本質たるところがよくわかった」や「何となくＣＩイメージ絶対論に矛盾を感じていたので、すっきりした」など、企業現場からの賛同の声がほとんどであった。

何事もそうであるが、「時代対応」の重要性、重大性をＣＩという、いわば、つかみどころのない仕事を通して、痛切に感ずるものである。

特に企業版ＣＩにおいては、なおさらである。国際化、多様化、多角化事業、情報化を単にことばの上の時代変革などと甘く受け止めてはいない。まさに自らの企業の運命を左右する重大事態であるかのように、受け止め、また真正面から、それらに取り組んでいる。

おおよそ昨今の企業の時代変化への学習吸収力は大したものである。日夜、情報しゅう集に血まなこになり、市場や競合他社の動向には鋭敏に反応する。社会の動き、経済の動き、消費動向の変化、流通のあり方などには、ことさら、敏感に反応する。

かってない企業間の「知恵くらべ戦争」が全日本的に、あるいは国際舞台をまたにかけて繰りひろげられている。ビジョン（長期展望とそれに向うべき企業のあり方）なくしては生き残れないビジネス環境というのも決してオーバーな表現ではなくなったのである。

それに加えての「企業人間論」の変革。ますます国際化した企業組織論、そして人的対応論。ひとすじなわではどうにもならなくなった人事政策。かってのように単純で単一の「人への対応」政策では、もはやどうしようもなくなったのである。

企業側はこの問題には、大いに悩んでいる。しかし、私に言わせれば、ごくごく当り前の姿に人々（企業人）が目覚めたのだと言うことになる。

消費者は変化した、多様化した価値意識をもち、分衆が生れ、少衆が誕生し、ＴＰＯごとに個々人の価値基準も微妙に変化する、などと企業は分析する一方、社員のこととなると、まるで変化しない人種の集合体と思わしき認識から脱脚できないでいる。

お客様は変化しているぞ！と叫ぶ一方、内向きには、社員も同様に変化している、なんて叫ぶことは決してないのである。

消費者も人間なら、社員も同じ人間。ここに「人事政策」の大きな「改革課題」が横たわっている。

前置きが長くなったが、さて今日的日本企業向けＣＩ論に話しをもどそう。

ＣＩは20年経っている。しかし、いまだ20年前と同様の「ＣＩ＝イメージ戦略論」をとなえ、それを企業に導入しよう、というから失敗談や反発論が続出するのである。

ＣＩは経営改革の一端を担う新時代の戦略だ、とか、ＣＩは内に向けて、外に向けてのダブル活性化手法だ、の理論が飛び交っている。

ことばでは簡単であるが、実際にこのことばの一つ一つを責任をもって具現化していくのは、並大抵のことではない。

スローガンを作って、新しい、カッコいいブランドを打

ち立てて、そのマークやロゴに最新のデザインをほどこしても、決して全自動的に、そんな大それたことが具現化してはくれない。

スローガンもマークロゴのデザインも全て「形」。かたちの上でのことに過ぎない。形をよくすれば、事業が活力化したり、人が活性化する、なんて甘いビジネスなど、今日どこにもない。

ＣＩは、先ず事業活力の向上からその作業がはじまる。現事業実態の分析とそれに伴う改革策。そして、新しい事業展望と多角化や業態変革の可能性をさぐる作業。これだけでも一年や二年かかる大工事である。次にこれらの作業と並行しつつメスを入れていくのが、「人」と「組織」の問題。社員、役員、トップの全員に対するヒアリングとインタビューの中から、企業内の体質や風土の非活性根源要因を発見していく。

ＣＩは活性化の切り札である、なんて大ボラを吹くヤカラがいるから、こちらは誠にやりずらい。確かにそれを目指すものではあるが、人の活性化ほどむつかしいものはない。最大限の努力を払って、それに取り組んではいるが、これだけは確信のもてないテーマなのである。

２千年、３千年の歴史が物語るように、「人」というのは、永遠に「よくなろう」と努力しつつなかなか「よくなってはこない」ことのくりかえしなのである。

私のＣＩ手法は必ず、このことを前提にしている。「人」の活性化は、いわば「砂山」のごとし。積んでも積んでもあとからあとからくずれてくる。かと言って放っておいては、必ずダメになる。

一方、事業や「モノ」の改革は、いわばレンガ積み。新しいことを成果として、無限に積み上げることができる。

「人」の対応には、徹底的に制度やしくみを見直してみる。企業内には意外に陳腐化したものが多い。明文化されたルールや制度のほかに、何の取り決めもない無意識の慣行や風習という手に負えないヤツが、まだ沢山あるのには閉口する。

これらを丹念に一つ一つ切り崩していく。ここに大きなメスを入れなければ、非活性原因を取り除くことはできない。

事業の分析、課題の抽出、改革提案、新事業の展望と企業の長期計画の策定。そして、人の問題、制度の問題、組織改革、さらには風習、慣行、システムの見直しと改善策・・・さまざまな側面から、企業の実態を見直し、それにメスを入れて、生れ変りの対策を講じていく。

ＣＩはそれほどまでに難儀な作業なのである。マークやロゴのデザインや制服、車輌のアプリケーションデザインなど、楽しい環境づくりなど、最後の最後の仕上げなのである。

今の企業人の価値意識は相当に高度化してきている。ものごとの正しさ、おかしさを存分にわきまえている。「企業イメージよければ、人は活性化する。事業も活性化する。」なんて、短絡的理論を信じるバカはいない。それだけにＣＩコンサルタントと称させてもらっている私にとっては頼もしい限りである。そういう言葉がかえってくると、うれしくなる。

今日、マーケティングの世界も、商品企画も随分そのスタンスが拡大されてきたようだ。企業経営の側面が、専門分野別にそれぞれ分化され、個々に専門視されていた時代から、大きく変化をとげてきている。

専門分野をより深くの論から、今日経営全般の側面により広く、そしてより深くの立体的質の高さが、それぞれのジャンルに要求されつつある。

それだけ世の中が、複雑化、多様化、高度化した、ということだろう。

デザインの分野とて同様。デザインそのものの深さを要求されると同時に、それにまつわるあらゆる周辺要因や関連問題をより広く学習し、クリアしていかねば成り立たない時代変革を感じざるを得ない。

そもそも、何のために、何を目的に、何を展望してそのデザインが必要とされているのか、ここには焦点を当てずして、もはや通り過ぎることの出来ない時代が到来したというのは言い過ぎであろうか。

企業トップの対応法や価値観の変事こそＣＩの切り札、と日夜悪戦苦闘している中で、そう思うことの多き日々なのである。

## デザイン随想

萬代　軍一

ある新聞の投稿の一節に「子どもの目は毒されているのか」と言う母の嘆きが記されていた。シャボン玉遊びでの母が子に「まあ！きれい」と子に話しかけると「美しくなんかないよ、透明だもん」としらけた子の返事である。

最近の子は毒々しいＴＶの色彩や氾濫するキャラクターの中に埋まり、澄んだ審美の目がかすんでしまったのではないかと嘆く母の話である。初等教育の幼・小の子ども達への美術教育の中にもデザイン学習の領域がある。将来自らの生活を拓き、美しくクリエイトできる芽ばえを育てる人間育成のためである。

然し私どもは子ども達が紫陽花や夕映えの美しさに感動する素直な目を知っている。更に美しさときれいさの違うことの解る子に育ってほしいとも考えている。現在は衣食住、暮しのデザインが華かに登場するが常に思うことは機能性、合理性やクールな感覚ばかりを追求する傾向は人間を疎外しないだろうかと言うことである。20年程前ヨーロッパを巡訪した回想であるが小さい土地を互に分ち合う国々は、自らの国や街づくりを実によく自然に融合させまた歴史の重厚さを継承しつつ営んでいるのに感心させられた。

緑にとけこんだ家屋、色鮮かに咲き競うガーデン、ビルも永い年輪の美しさを保有し続け何世代かを経てきている。

新しがりやの日本人は過去や未来の展望と有機性をも無用とばかりクールな発想でモデルチェンジしたがるようである。最近のビルも一瞬に取りこわし、掘りおこしては埋めたてるなど余りにも構想が貧しく感ぜられる。外国を観て日本を眺めると、コンクリートビルとアルミビルが背を合わせ隣に軽量のガラスのビルがちぐはぐの高さで雑居し、それらの谷間に文化アパートが軒を共にしている無神経さに気付く。それは日本人のおおらかさと言えるかも知れない。

最近各都市が競ってデザイン宣言の花火を打ちあげているのは有難いが常に全体構想の調和と古きものこそ新しいとの理念の中で永く人々が快適に息づけるデザイン活動を求めていきたいと願っている。本当の美しさは物そのものを超越した心のひそむ訴えがあり、単にきれいではない。

## １人？役

堺　初美

会員にしていただきながら、仕事と家事に一人何役かを担って、多忙を極めておりまして、皆様には御無沙汰致しております。

現在フリーでインテリアコーディネーターをしておりまして、最近は住宅を建てられる方のご相談以外に、インテリア業務について勉強している方達の教室や、社員教育、住宅メーカー、中小工務店等へ、いわゆるコーディネートに関する内容を中心に講師で出かけることが多くなりました。各教室で質問される度に、自分が主婦であり、日常の中で体験してきたものが全て、具体的に話してあげられる材料にもなっていて、相手が納得してくださっているのを痛感致します。講義では一般的な内容にならざるを得ませんが、やはり個人住宅を建てられる時などでのコーディネーター業務は、その方の家族を含めたライフスタイル等を充分お聞きして、具体的に御相談にのるということで、内容も、要する時間も予定通りにゆきません。でも自分にとってはお客様と一緒に出来上りを楽しみに、業者の方達とのクッション材や、パイプ役になって皆で良い住宅を作った感が残る時が何とも仕事冥利に尽きる気が致します。最終お客様が喜んで下さるのを励みに続けております。

もう一つの業務であるステンドグラスのデザインと制作も、住宅ドアー、吹ぬけ、間仕切りなどに入れたい方が少しずつ増えて来ているようで、実際納品する度に会場を提供していただいて自分の作品展をしていただいているようで感激致します。自宅で工房を主宰していることもあって、生徒さん達も何人か育ってくれて明るい仕事場を作っております。最後に大切な"おさんどん"業を付け加えておわりたいと存じます。

## SADA第４回総会

６月12日㈮新しく開通した地下鉄中百舌鳥駅の近くにある、これも新装なった㈶南大阪地域地場産業振興センター（通称じばしん）４階セミナー室に於いて、堺デザイン協会第４回通常総会が定刻の午後６時より開催された。

総会は岡村事務局長の開会の辞に続き当日の出席者数が14名、委任状提出が16名あり総会が有効であることが確認された後、会則により川崎理事長を議長に選出した。
議長挨拶に引続き議事に入り第１号議案　昭和61年度事業報告及び収支決算報告の件、第２号議案　昭和62年度事業計画及び収支予算の件がそれぞれ各担当理事により報告、提案がなされ、共に全会一致で承認された。次に第３号議案の役員改選の件に移り、選挙管理委員長の要信一氏より先に郵便投票により選出された理事７名、監事２名が発表され、これも全会一致で承認された。役員および役務分担は理事長に川崎浩氏、副理事長に金子誠之助氏、事務局長に岡村筍氏、事業担当理事に上野あきら氏高木外氏、広報担当理事に山崎晶氏、総務担当理事に森和雄氏、監事に老健一氏、垣村三平氏となり、出席者もこれを了承し総会は１時間程で滞りなく閉会した。

ここで一旦休憩にはいり引続きじばしん４階の別室に会場を移して懇親会を行った。会場は入ると正面外壁が大きなガラス張りとなっており、暮れゆく堺市と将来変貌するであろう堺市の副都心の中百舌鳥駅周辺が一望出来た。
立食式の会は上野理事の進行で始まり、出席会員数も23名に増えており、中小企業振興会理事長で当じばしんの副理事である市川幸次氏を来賓に迎え、賛助会員からは堺商工会議所の鈴木部長、堺刃物商工業協同組合連合会理事長でアルス刃物製造㈱社長の滝川重次氏にも出席いたゞき、にぎやかに懇親が行なわれた。要信一氏の乾杯の音頭により会食に入った会も金子副理事長の閉会の辞が告げられるころにはガラスの向うはすっかり夜の帳が降りていた。

（崎田公明）

## SADA事業委員会レポート

日　　時：1987年８月22（土）
場　　所：堺市上ノ芝向ヶ丘町３丁1228－４
　　ＴＥＡ　ＨＯＵＳＥ　向ヶ丘３丁目
出席委員：森　達男・阪井龍彦・尾崎悦子・木原節子
担当理事：高木　外・上野あきら
副理事長：金子誠之助（オブザーバー）

ＳＡＤＡ　ＮＥＷＳ　愛読者の皆様、いかがお過ごしでしょうか？　今日はＳＡＤＡ事業委員会の様子を、お知らせしたいと思います。メンバーは、ファッション・グラフィック・インテリア・ＩＤ・フラワーデザインに渡っており、様々な意見や発想が湧いてくる、期待の出来る面々です。それから大事なことが一つ、この委員会には美しい女性が二人、参加されていることも、ご報告申し上げます。

さて、本題に入りますが、当日は、見学会、セミナー等の企画案を、検討致しました結果、現在失われつつある、「明治建築物を見直そう。」ということになり、10月に〝明治建築物を見る会〟を開催する予定で、委員一同張り切っております。最近堺にも、観光タクシーが運行したとの、News も紹介されており、これを利用し会員相互の親睦・建築物に対する感心を、深めて頂くと共に、観光業界に対しても、新しいルートの提案になるのではないでしょうか。詳しくは、後日案内書を会員の皆様に、お送り致します。尚、この見学会には、友人・知人もご一緒に参加して頂ける様に、考えておりますので、振るってご参加ください。
（昭和62年度・第１回）　　（上野あきら）

## 秋の文化・スポーツ催事

■堺市の催事

●市民オリンピック　10月10日　金岡公園

●堺まつり（前夜祭）　10月17日　市民会館

（パレード他）　10月18日　大小路他

パレードには、タレント立花理佐さんが出場し、またブラジルサンバチームも参加して、テレビ大阪で実況中継される。

●農業祭　11月23日　大仙公園

■博物館の展示

●特別陳列「扇絵」　～9月27日

●秋季特別展「漁具の考古学」―さかなをとる―　10月3日～11月8日

●堺市展（日本画・洋画・彫刻・工芸・写真・書道・てん刻）　前期　10月27日～11月1日　後期 11月3日～11月8日

●特別陳列「銅鐸」―拓本による　11月14日～12月20日

■大阪21世紀計画・秋のイベント

●日中友好青年写真展　10月9日～15日　大阪国際交流センター

●東大阪産業フェア　10月17日～23日　八戸ノ里プール公園一帯

●第3回ヤングフェスティバル　10月25日　大仙公園

●'87トータルオートメーションフェア大阪　10月28日～31日　インテックス大阪3、4、5号館

●第3回国際デザインフェスティバル国際デザイン展'87　10月30日～11月15日　インテックス大阪1号館

●SPACE CREATION '87―都市のいのち、空間アメニティを創る―　11月21日～29日　ツイン21　1階ギャラリー

■大阪国際ファッションフェスティバル

●国際トータルファッション展（ATF展）　11月17日～19日　大阪マーチャンダイズマート　マイドームおおさか（海外館）

●国際ファッションショー　11月20日～21日　大阪城ホール

●アジアファッションショー　11月17日～18日　マイドームおおさか

●アジアデザインフォーラム　11月19日　マイドームおおさか

## 会員ニュース

●木下良明さんがお住いを奈良に移されたため、ご本人の希望により退会されました。いろいろご協力ありがとうございました。ご活躍をお祈りいたします。

●SADA会員は8月末現在で個人会員46名、賛助会員15社になりました。

●SADAの発展のため会員の増強をはかりたいと思います。入会希望の方をご紹介下さい。事務局まで。

## 表紙の周辺

今年3月、中百舌鳥地下鉄車庫上の人工地盤の上に忽然とシルバーメタリックの近代的ビルが現れた。愛称じばしん南大阪」、周囲にまだ多く残っている田畑の緑と奇妙なコントラストを見せている。

建物は5階建ての本館と、平屋建ての別館イベントホールの2棟。本館は延べ5200平方メートル。　1階が地場産業製品の展示場とレストラン、ビデオによる地域情報コーナーがある。2階は展示場、OA関連セミナールームがあり、4月からOAスクールが開講している。3、4階には図書館、資料室、研修室があり、5階には通訳ブースを備えた国際会議場をはじめ、大小の会議室がそろっている。

別館は延べ2400平方メートル、846席の可動座席を備えたイベントホールで、ファッションショー、展示会、コンサート等、多目的に対応して利用出来る。

産業と市民のふれあいの場であるとともに、高度情報化社会に向けての産業振興を図るための諸機能を集約させていく施設として大きな期待を集めている。　設計は大阪の小河建築設計事務所。

なおSADAニュースでは引続き次号に関連記事を掲載する予定です。　（山崎）

会報 SADA 7号
昭和62年9月30日

発行　堺デザイン協会
〒590 堺市北向陽町1-1-7 オカムラデザインプロ内TEL0722-29-5011

編集　堺デザイン協会広報委員会